

コウノトリは幼鳥の事故が多発中！

伊崎実那（兵庫県立大院博士後期課程2年）

野生復帰の取り組みが始まられて約15年、繁殖環境と採食環境の整備の甲斐あって260羽が生息するまでになったコウノトリ。順調な歩みの陰で140件にものぼる防獣ネットへの絡まりや電線への衝突などの事故が起きています。特に若鳥で事故が多発していることに着目した伊崎さんは、市民の参加も得ながら事故が起きやすい若鳥の行動範囲や時期を特定し、地図上で事故要因と重ね合わせて、優先的に対処すべき対策を絞り込み、具体的な対策につなげようと調査計画を立てています。

リュウキュウオオコノハズクは都市で生きられるか

—適切な保全に向けた基礎生態の解明—

島嶼鳥学研究会 熊谷隼¹・江指万里¹・宮城国太郎²（1. 北大・院・理 2. 沖縄野鳥の会）

分かっていないことが多い夜行性の鳥類。沖縄にのみ生息する固有亜種のリュウキュウオオコノハズクもそんな鳥のひとつです。島嶼鳥学研究会の熊谷さんたちは、沖縄本島南部の都市部でも観察されることがある本種の分布を明らかにするとともに、生息が確認された地域に巣箱を設置して繁殖行動を含めた基礎生態を調査し、都市部で繁殖する本種の謎に迫ります。

アオバズクの渡り戦略における島嶼の重要性の検証

竹田山原楽^{1,2}・細谷淳²・塩見こすえ¹・田谷昌仁¹

（1.東北大学生命科学研究所 2.日本鳥類標識協会）

渡りをするフクロウの仲間、アオバズク。いったいどんな渡りをしているのでしょうか？渡り経路として沖縄－台湾－フィリピンを通るルートが考えられていますが、これらの島々を中継地として利用しながら渡っているのでしょうか？もしそうだとしたら、中継地ではどんな環境を利用しているのか・・・。竹田さんたちは東北の雑木林でアオバズクを捕獲し、GPSロガーによる追跡を試みます。

九州で冬を越すツバメの分布と利用環境

—気候と土地利用に焦点をあてて—

天野孝保（長崎大学大学院博士後期1年）

本来東南アジアで越冬するツバメですが、その一部が九州南部に残って越冬しています。しかし、その全貌は明らかになっていません。そこで、天野さんはまず九州南部のどこでツバメが越冬しているのか沿岸部に沿って探索調査を行い気候条件との比較や、スケールを変え流域スケールでツバメが採食している場所の特定とその場所の食物資源の調査を行い、本来より北の地で越冬できる要因を解明します。

みんなで作る「標識コハクチョウ名簿」

—カラーマーキング調査をロシアと共同実施—

バードリサーチ

ロシア北極圏のチャーン湾で繁殖するコハクチョウの標識調査をロシアの研究者のDiana Solovyevaさんが実施しています。ここで赤い首輪を装着されたコハクチョウは、日本にやってきて越冬します。多くの個体に首輪をつけることができれば、移動や繁殖開始年齢、死亡率などがわかつてきます。バードリサーチでは、Dianaさんたちと共同で標識を行うとともに、標識個体の目撃情報を集めて分析する予定です。

バードリサーチ 調査研究支援プロジェクト

http://www.bird-research.jp/1_event/aid/kifu.html



2021年度 支援先調査研究プランのご紹介

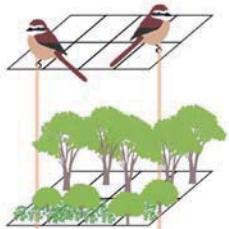
2021年9月～10月に支援先となる調査研究プランの募集を行ない、12件のプランが集まりました。その中から支援先を決定するため、上田恵介立教大学名誉教授、金井裕日本野鳥の会参与、出口智広兵庫県立大学准教授、水田拓山階鳥類研究所保全研究室長、植田睦之バードリサーチ代表の5名で一次審査を行ない、バードリサーチからの1件を含め10件の支援先を選定しましたので、各プランの概要をご紹介します。詳細はホームページにPDFで掲載しています。

北海道のアカモズがすみやすい環境は？

－アカモズの保全に配慮した森林管理の提案へ－

北沢宗大^{1,2}・市川伸²・青木大輔^{1,2}・先崎理之^{1,2}

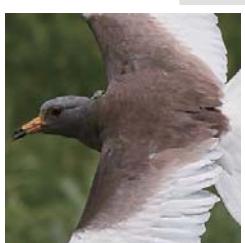
(1. 北海道大学大学院 2. 日本渡り鳥保全・研究グループ)



生息地が限られているアカモズ。北海道では国有林や道有林に生息していますが、そこには天然林が残るほか、樹齢の異なる植栽林が存在しています。北沢さんたちは、森林内をくまなく調査しアカモズがどの樹林にいるかを調べます。アカモズの環境選択を考えると若齢植栽林を好んでいそうですが、はたして実際はどうでしょうか？得られた成果をもとに、アカモズの保全に配慮した実現可能な森林管理の提案をまとめ、林野庁などに働きかけることも視野に取り組んでいきます。

謎多き鳥、ケリの渡りの解明－標識とGPSロガーを用いた追跡－

小丸奏（岐阜大学応用生物科部 4年）



一年中いるけど季節によって個体数が変動していたり、渡りの季節に海峡を越えて飛んでいるのが観察される鳥がいます。こうした鳥は国内で小さな渡りをしている可能性がありますが、いわゆる渡り鳥に比べると、実は研究はあまり進んでいません。小丸さんはこうした鳥のひとつであるケリを対象に、個体数調査に加え、足環標識とGPSロガーを用いた調査でその実態に迫ります。

新しい渡り鳥調査手法－夜に渡る鳥の識別とカウント－

原星一

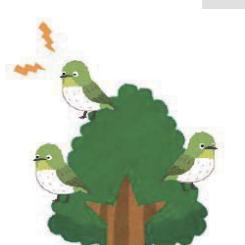


小鳥やカモ類など夜に渡る鳥は数多くいます。船舶レーダーなどを使ってその様子を捉える方法もありますが、しかし、種を識別することはできません。原さんは、津軽半島の北端に街灯の光で夜に渡っている鳥が識別できるポイントを見つけたことで、どんな鳥が渡っているのか調べられることを発見しました。夜の渡り鳥を種まで特定する手法を確立することができたら・・・ワクワクしますね。

メジロは何をしゃべっているのか？

－メジロの音声言語と混群構成種との関係－

近藤雅也（名城大学農学研究科 1年）



近藤さんは、メジロの鳴き声にチーのほかにキュルキュルと連続した声があること、警戒声にあたる声を持っていないこと、カラ類などと混群をつくることに着目し、メジロの持つ声の機能を明らかにしようと考えています。混群形成専用の声を持っていたり、他種の警戒声を借用していたり、なんてことがあったら面白いですね。

「ゴキブリの味はママの味！？」

－餌の好みは親からもらった餌で決まる？－

金杉尚紀¹・白岩颯¹・佐々木瑠太²・中村晴歌¹・澤田明³ (1. 北大 2. 立教大 3. 国環研学振PD)



学習は遺伝に寄らず親から子に行動を受け継ぐことを可能にします。どんなものを自分の食べ物として捕まえるかという選択は、学習によって受け継がれているのではないかと金杉さんたちは考え、大東島のリュウキュウコノハズクを対象に、餌の好みが親子間で似ているかどうか調査する計画です。



バードリサーチ 調査研究支援プロジェクト

支援意思表示 Fax 連絡票

お名前 : [] ご住所 : []

E-mail : [] 支援先にあなたのお名前を伝えたくない
場合は右の□にチェックしてください

001 北海道のアカモズがすみやすい環境は？ —アカモズの保全に配慮した森林管理の提案へ—
北沢宗大^{1,2}・市川伸²・青木大輔^{1,2}・先崎理之^{1,2}
(1. 北海道大学大学院 2. 日本渡り鳥保全・研究グループ) [] 票

002 謎多き鳥、ケリの渡りの解明
—標識とGPSロガーを用いた追跡—
小丸奏（岐阜大学応用生物科部 4年） [] 票

003 新しい渡り鳥調査手法
—夜に渡る鳥の識別とカウント—
原星一 [] 票

004 メジロは何をしゃべっているのか?
—メジロの音声言語と混群構成種との関係—
近藤雅也（名城大学農学研究科 1年） [] 票

005 「ゴキブリの味はママの味！？」 —餌の好みは親からもらった餌で決まる?—
金杉尚紀¹・白岩颯¹・佐々木瑠太²・中村晴歌¹・澤田明³
(1. 北大 2. 立教大 3. 国環研学振PD) [] 票

006 コウノトリは幼鳥の事故が多発中！
伊崎実那（兵庫県立大院博士後期課程2年） [] 票

007 リュウキュウオオコノハズクは都市で生きられるか
—適切な保全に向けた基礎生態の解明—
島嶼鳥学研究会 熊谷隼¹・江指万里¹・宮城国太郎² (1. 北大院理 2. 沖縄野鳥の会) [] 票

008 アオバズクの渡り戦略における島嶼の重要性の検証
竹田山原楽^{1,2}・細谷淳²・塩見こずえ¹・田谷昌仁¹
(1. 東北大学生命科学研究科 2. 日本鳥類標識協会) [] 票

009 九州で冬を越すツバメの分布と利用環境
—気候と土地利用に焦点をあてて—
天野孝保（長崎大学大学院博士後期1年） [] 票

010 みんなで作る「標識コハクチョウ名簿」
—カラーマーキング調査をロシアと共同実施—
バードリサーチ [] 票

■支援先を決めずに寄付する [] 票

銀行または郵便局から寄付を送ってくださる場合は、メールの代わりに、この用紙を使ってFaxでご連絡いただくこともできます。
Fax後に銀行または郵便局の指定口座に、合計額を振り込んでください。

1票=1口 3000円 × 合計 [] 票

= 寄付額合計 [] 円



送付・連絡先

バードリサーチ調査研究支援プロジェクト担当 高木憲太郎

E-mail br@bird-research.jp

Fax 042-401-8661